

第3章 製品/端末

次世代放送/セットトップボックス

次世代放送の真打ちepサービスが開始
蓄積型を生かしたビジネスモデルの確立が鍵

次世代放送の典型は、東経110度CSを使って行われる世界初の蓄積型放送サービスである。また、次世代セットトップボックスのあり方を示すものが、蓄積型放送サービスの専用受信機である「epステーション」であり、そこに地上波デジタル放送のチューナーが組み込まれたものが、ある意味での完成形と言えそうだ。

ハードディスクがポイント

松下電器産業・東芝・日立製作所などが出資するイービーは、東経110度CS放送で蓄積型放送サービス「epサービス」を行う。そして、その専用受信機が「epステーション」と呼ばれるものである。

「epステーション」は、セットトップボックスとして発売し、家庭用据え置き型VTRやケーブルテレビの受信機と同様に、外付けの機器としてスタートする。

「epステーション」の初出荷は、東芝、松下電器産業、シャープ、日本ビクター製の4機種であり、BSデジタル、110度CSデジタル両チューナー、ハードディスク、56kbpsモデムを基本スペックとして搭載する。ハードディスク（シャープ製が80Gバイト、他の3社が60Gバイト）20Gバイトは蓄積放送用のepエリアでTコマース（テレビを通じた電子商取引）の実現も標榜している。残りがユーザーエリアであり、好きな番組の録画・追っかけ再生などが可能である。現在各家庭で使われているVTRよりも使い勝手はよさそうだ。

また、内蔵されているモデムを使って、ep対応の番組内のコンテンツに対する商品の注文や資料請求をインターネット経由で行う双方向機能も提供される。

イービーは、ハードディスクに蓄積・更新される番組コンテンツ、さらにインターネットを組み合わせて、個人の嗜好に合わせた情報を提供するサービスであ

る。蓄積番組は、放送と連動したショッピング、金融、生活情報、エンターテインメントなどのコンテンツで、好きな時にいつでも視聴できる。

epサービスの利用に使う20Gバイト分のコストはイービー自身が負担することにより、機器の価格を抑える方針だ。

インターネットへのリンクも可能であるため、テレビ画面をディスプレイとして電子メールなどを利用することもできる。インターネットのノンPC化が進むなかで、そうした傾向にも歩調を合わせようとの狙いである。BML（BSデジタル放送用のコンテンツ記述言語）の使用により、インターネットとの親和性を欠いたかたちでスタートしたBSデジタル放送も「epステーション」を使うことにより、インターネットとデジタル放送の新たな調和が生まれることになる。

イービーは、2003年ごろまでに100万台、2005年ごろまでに300万台の販売を見込んでいるようだが、この点でも1000日で100万台と景気の良い目標を立てながら不振に喘いでいるBSデジタル放送と対照的で、いかにもメーカー連合らしい手堅さが見て取れる。

2003年に始まる地上波デジタル放送にも対応することを検討しており、地上波デジタル放送の画面からインターネットへのリンクなども実現しそうだ。地上波放送のデジタル化は、2003年末から段階的に始まることになっており、現在の「epステーション」に地上波デジタルチューナーの機能が付加されることにより、デジタルセットトップボックスの完成形になっていくと考えられる。

epステーションのアキレス腱

「epステーション」のアキレス腱と言われているのが、録画・蓄積できるのは、BSデジタル放送と東経110度CSデジタル

放送の番組だけという点である。やはり本格的な普及を促すためには、地上波放送の番組を録画・蓄積できるようにする必要がある。おそらくその辺りの問題は、地上波デジタルチューナーの機能が付加されるところで、解決していくに違いない。

また、epエリアに蓄積される情報も、現時点では、まだまだ始まったばかりということもあって、こなれていない感も否めないが、少しずつ生活必需品になるような情報が蓄積されていくことによって、利用の度合いも高まっていくことになるだろう。

そうすると、デジタルセットトップボックスがあれば、地上波、BS、CSの各デジタル放送が視聴でき、好きな番組を蓄積し、インターネット、さらにTコマースも可能となる。もはや、テレビだ、パソコンだ、という区別は不要になりかねない。さらには、視聴している番組が、地上波、衛星、ケーブルのどこから伝送されてくるのかといった区別も意味がないと考えられる。まさに、放送と通信の融合したサービスを提供してくれる機器となるはずである。

（西正 日本総合研究所メディア研究センター所長）

Jump01 www.epep.jp



写真1 epステーション。写真は80G大容量ハードディスク搭載のEP-S200。



[インターネット白書 ARCHIVES] ご利用上の注意

このファイルは、株式会社インプレスR&Dが1996年～2012年までに発行したインターネットの年鑑『インターネット白書』の誌面をPDF化し、「インターネット白書 ARCHIVES」として以下のウェブサイトで公開しているものです。

<http://IWParchives.jp/>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、データ、URL、名称など)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真・図の作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は掲載されていない場合があります。
- このファイルの内容を改変したり、商用目的として再利用したりすることはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用される際は、出典として媒体名および年号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレスR&D)などの情報をご明記ください。
- オリジナルの発行時点では、株式会社インプレスR&D(初期は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めました。すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接および間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

お問い合わせ先

株式会社インプレス R&D

✉ iwp-info@impress.co.jp